

掲示板のことば

やなせたかし「手のひらを太陽に」

みんな
みんな
生きて
いるんだ
友だち
なんだ

2025. 09

誰もが知っている歌ですよ。子どもの頃から、数えきれないほど歌ってきました。でも、歳を重ねるごとに、友だちになる、ということがとても難しく感じるようになってきました。

かつて、お坊さんの大先輩から「君は門徒（浄土真宗の信徒）の友だちがいるか？」と聞かれたことがありました。つまり、お寺でいうところの檀家さんのような関係性の中で、「友だちがいるか？」と聞かれたのです。

もちろん「いません」と答えました。住職という立場に気を取られると、なかなか難しいことです。でも、そのように目の前の門徒さんと向き合いなさい、と言われたような気がして、ずっと心に留めている言葉です。

立場や、利害関係や、自分の思い、好き嫌いで人を選んでいると、「友だち」にはなれません。でも「いのち」は、本当はみんな友だちなのでしょう。

やなせさんは、ミミズだって、オケラだって、アメンボだってみんな友だちだと言っていますからね。生きている「いのち」は、本当には友だちなのですね。

子どもの頃は、もっと純粹に、目の前の人に「友だちになろう」と言えたのかもしれないが、今は・・・そう言う自信がありません。

大人になると、友だちより「仲間」を作ろうとしているのかもしれない。そうすると、どうしても仲間はずれ（敵）を作ることになってしまいます。

何かを守りたいのでしょうか。自分が心地よい生活を求めているのでしょうか。生きている「いのち」を友だちだと思えば、戦争は無くなるのでしょうか。

真宗大谷派 光明寺住職 小林尚樹